

道の駅萩往還に女性駅長が就任

－萩出身公認会計士の資格を持つ土田愛美が4月1日より新駅長に－

一般社団法人 萩物産協会（以下：萩物産協会）が運営する道の駅萩往還では、2026年4月1日より、新駅長として土田愛美(38歳)が就任いたします。萩市椿出身で萩高校卒業。埼玉大学進学後、公認会計士の資格を取得。大学卒業後、東京都内の監査法人で勤務。出産を機に、萩にUターンし、道の駅萩往還に着任した異色の経歴の持ち主。帰郷後、野菜ソムリエプロの資格を取得し、道の駅萩往還の広報、2018年からは萩物産協会事務局長を担当してきました。萩出身ならではの「地元目線」と、一度都会で暮らした「他所から見た萩」の両方の目線を活かし、萩に新しい風を吹き込みます。

道の駅萩往還の前身は道の駅「萩往還公園」。1993年の全国初の道の駅第一回登録103駅のうちのひとつの歴史ある道の駅です。2010年、萩有料道路の無償化にともない、施設をリニューアルし、駅名を「萩往還」に改称しました。初代駅長に宇部出身の篠原充が就任しましたが、このたび16年間の勤務を終え、引退します。

2026年現在、道の駅は全国で1,200駅を超え、国土交通省は道の駅の機能を第1ステージ(1993～)の「道路利用者のサービス提供の場(休憩)」から、第2ステージ(2013～)の「道の駅自体が目的地」、第3ステージ(2020～)の「地方創生・観光を加速する拠点」と定義しています。今後はスマホの普及や生成AIの加速的進化により、AIコンシェルジュによる「超パーソナライズド観光案内」や「言語の壁」が消滅するインバウンド対応、需要予測など、情報を先回りして提供する時代になります。自動運転技術が進化すれば、道の駅が無人モビリティの配車拠点になる可能性もあります。また、災害発生時にはAIによる正確な情報提供や物資の手配など「インテリジェント防災機能」も期待されています。

このように、地域の特産品や人の温かみ、風景といったリアルでアナログな魅力を、最先端のデジタル技術が支える時代がやって来ています。

このたび新駅長として、新しい時代の「ツール」や「ルール」に対応し、萩の地域経済の発展に少しでもお役に立てるよう、頑張っていきます。どうぞよろしくお願ひします。



土田 愛美 (つちだ まなみ) プロフィール

- 1987年 萩市生まれ
 - 2006年 山口県立萩高等学校理数科卒業
 - 2010年 埼玉大学経済学部経営学科卒業(2008年公認会計士試験合格)
 - 2015年 東京都内監査法人退職
 - 2015年 道の駅萩往還着任 現在に至る
- 資格：公認会計士、野菜ソムリエプロ
趣味：ピアノ、ロックバンドライブ参戦、TDL 攻略

一般社団法人 萩物産協会 道の駅萩往還
758-0061 萩市大字椿字鹿背ヶ坂 1258
TEL : 0838-22-9889 FAX : 0838-22-9880
Mail : hagioukan003@tenor.ocn.ne.jp